■ 出品目録

No.	指定　資料（作品）名	員数	所蔵
第一章　大坂冬の陣と福井藩			
1	続片聾記　二	1冊	当館蔵
2	大坂御陣之節御法度書・直判之写	2通	松平文庫　福井県立図書館保管
3	大坂冬御陣之図	1幅	当館蔵
4	大坂記	1冊	松平文庫　福井県立図書館保管
5	越州御代規録　一	1冊	松平文庫　福井県立図書館保管
6	御家中指物	1帖	松平文庫　福井県立図書館保管
7	大坂物語　上	1冊	大阪城天守閣蔵
8	雉子形変わり兜（秀康・忠直・直政所用）	1頭	井伊達也氏蔵
9	袖目金　一	1冊	松平文庫　福井県立図書館保管
10	大火縄銃　銘　榎並屋勘左衛門　大てんぐ　十匁弐分	1丁	大阪城天守閣蔵
11	慶元通鑑　四	1冊	松平文庫　福井県立図書館保管
第二章　大坂夏の陣と福井藩			
12	卯年天王寺表御合戦備図	1幅	当館蔵
13	越叟夜話	1冊	松平文庫　福井県立図書館保管
14	大坂夏の陣図屏風（複製）	半双	当館蔵
15	越前世譜　二	1冊	松平文庫　福井県立図書館保管
16	○大坂夏の陣越前兵首取状　巻三（三宅三之丞）	1巻	大阪城天守閣蔵
17	越藩史略（写）三	1冊	当館蔵
18	御家譜　ニ	1冊	松平文庫　福井県立図書館保管
19	忠昌様大坂ニ而御戦功有増・私覚	2冊	松平文庫　福井県立図書館保管
20	諸士先祖之記録　一	1冊	松平文庫　福井県立図書館保管
21	采配（伝真田幸村所用）	1握	越葵文庫　当館保管
22	短刀　銘左	1口	個人蔵
23	石造地蔵菩薩立像　通称「真田地蔵」	1躰	当館蔵
24	大坂物語　下	1冊	大阪城天守閣蔵
25	此御帳ニ相記候名元之面々隆芳院様御元之面々隆芳院様御代先祖何某何御役相勤候哉　内分吟味之上書記差上候様被仰出	1冊	松平文庫　福井県立図書館保管
26	家譜　忠昌公	1冊	越葵文庫　当館保管
27	隆芳院様大坂御陣御供	1綴	松平文庫　福井県立図書館保管
28	十文字槍　銘広正（松平忠昌所用）	1筋	越葵文庫　当館保管
29	家譜　忠直公	1冊	越葵文庫　当館保管
30	茶壺（銘初花）	1口	越葵文庫　当館保管
31	緋威鉄五枚胴具足（松平忠直大坂の陣所用）	1領	井伊美術館寄託
第三章　大坂の陣に参陣した家臣と家			
32	結城秀康知行宛行状	1通	当館蔵
33	山縣家系	1巻	当館蔵
34	むかで衆旗型紙残片	1枚	当館蔵
35	山川略系	1通	当館蔵
36	大坂の陣備の次第	1通	当館蔵
37	大坂御陣首注文之抜書	1通	当館蔵
38	結城秀康知行宛行状	1通	多賀谷博子氏蔵
39	代々書付	1通	多賀谷博子氏蔵
40	大坂冬の陣図	1幅	多賀谷博子氏蔵
41	豊臣秀吉御内書	1巻	多賀谷博子氏蔵
42	徳川家康御内書	1巻	多賀谷博子氏蔵
43	結城秀康書状	1通	多賀谷博子氏蔵
44	松平忠直書状	1通	多賀谷博子氏蔵
45	金小札紺糸威二枚胴具足	1領	多賀谷博子氏蔵
特別展示			
	御手杵の槍（復元）	1筋	箭弓稲荷神社蔵

○は大阪市指定文化財

関連行事

ギャラリートーク（担当学芸員による展示解説）

日時　7月23日（土）、8月7日（日）、8月13日（土）、8月21日（日）
　　各回とも午後2時から30分程度
場所　郷土歴史博物館　企画展示室
但し、観覧料が必要です。

次回の展示

松平家史料展示室＜企画展＞
刀と刀装
9月14日（水）～11月23日（水）

松平家史料展示室　展示解説シート No.98
平成28年7月22日発行
福井市立郷土歴史博物館
〒910-0004　福井市宝永3丁目12-1
電話　(0776) 21－0489　FAX (0776) 21－1489
担当　印牧信明
印刷　宮本印刷

福井市立郷土歴史博物館
FUKUI City History Museum
展示解説シートNo.98

平成28年夏季特別陳列

大坂の陣と福井藩

－越前松平勢の活躍と家臣たち－

●主催　福井市立郷土歴史博物館
●会場　2階企画展示室
●会期　平成28年7月22日（金）～8月31日（水）
休館日：8月22日（月）

プロローグ

慶長5年（1600）、関ヶ原の戦いで勝利した徳川家康は、同8年に征夷大将軍に任官して江戸幕府を開き、10年には秀忠へ将軍職を譲りました。一方、大坂城には豊臣秀吉の遺児秀頼（ひでより）が居り，諸大名とは別格の存在として確固たる地位を保っていました。

徳川氏が将来にわたり天下を支配し続けるためには、どうしても豊臣氏の勢力を排除しておく必要があったのですが、そのきっかけとなったのが、京都にある方広寺の鐘銘（しょうめい）事件でした。

19年（1614）7月、徳川方は豊臣秀頼が再興した方広寺の鐘銘に、「国家安康」「君臣豊楽」とあるのは、家康の字を裂き、豊臣を君として楽しむものであるとして、豊臣方を問いただし、弁明の使者として大坂から片桐且元（かつもと）が、家康が居る駿府へ派遣されました。

結局、且元は家康から許しを得ることができず、大坂へ戻ってから和議の条件を提案しました。その内容は、①秀頼が大坂城を出ること、②秀頼が江戸へ参勤すること、③淀殿（よどどの）が人質として江戸へ下ることです。

豊臣方は、提案をした且元を裏切り者とみなし、身の危険を感じた且元は大坂城を退去します。そして、戦闘準備として、大坂城には大量の兵糧米が運び込まれ、多数の浪人も召し抱えられました。

第一章　大坂冬の陣と福井藩

慶長19年（1614）10月、家康は豊臣方の不穏な動きを受けて、諸大名に出陣を命じ、大坂冬の陣が始まりました。そして、11月半ばには20万を超える徳川方の軍勢が、10万5000の将兵が立て篭もる大坂城を包囲したのでした。

12月4日、2代藩主松平忠直が率いる福井藩の軍勢は、加賀藩や彦根藩など、徳川方の将兵とともに、大坂城を南方から攻めました。しかし、城方の銃撃などにより多数の死傷者を出して退きました。

因みに、福井藩の本隊は八丁目口付近の惣構（そうがまえ）を中心に攻めましたが、一部の兵は真田幸村（信繁（のぶしげ））が造らせたとされる出丸、「真田丸」の攻略に向かったようです。

大坂城が堅固であることを知った家康は、鉄砲・大砲による砲撃を行い、福井藩にも砲撃命令が下りました。連日の攻撃で、淀殿など城中の人々を動揺させた結果、同月21日には、城の堀を埋めることなどを条件に、徳川方と豊臣方の和議が成立しました。

第二章　大坂夏の陣と福井藩

和議の成立後、家康は秀頼に対して、籠城する浪人を召し放つか、大和郡山へ移るかを迫りました。豊臣方が容認できるはずもなく、再び戦さの道へと突き進んでいきます。

本丸を除くほとんどの堀が埋め立てられたことで、大坂城は「裸城」同然の有様となり、幸村（信繁）など豊臣方の諸将は、城外での戦いを強いられることになりました。また、兵力も徳川方の約15万に対し豊臣方は約5万と、両陣営にはかなりの差があったようです。

そのような中で夏の陣が勃発（ぼっぱつ）し、慶長20年（1615）5月6日・7日の両日、徳川方と豊臣方の間では、最後となる本格的な戦闘が繰り広げられました。

特に6日の戦いでは福井藩の軍勢が、徳川方の兵に加勢をしなかったため、家康から昼寝をしていたのかと叱責（しっせき）され、翌日必死の覚悟で奮戦することになります。

最終決戦となった5月7日、天王寺表にまで兵を進めた福井藩は真田隊などと激しく激突しました。その模様は「大坂夏の陣図屏風」（右隻）の中央部にも描かれています。人数に勝る越前の兵は真田隊を撃破、家臣西尾仁左衛門が勇将幸村を打ち取り、勢いに乗って大坂城一番乗りを果します。

翌8日、秀頼は母淀殿とともに自害し、豊臣家は滅亡します。この戦いで多くの将兵・庶民が亡くなりましたが、ようやく戦国乱世も終わり、世の中は天下泰平の時代を迎えたのです。

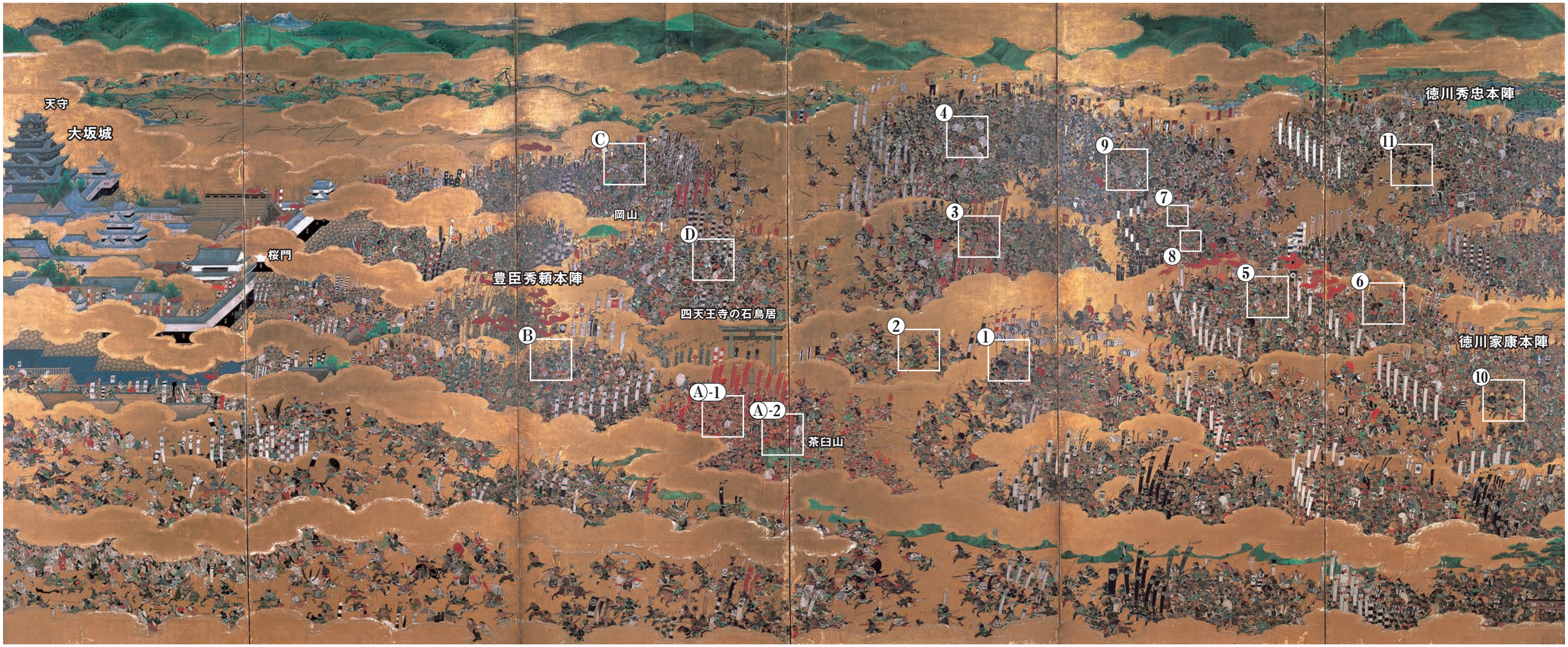
第三章　大坂の陣に参陣した家臣と家

福井藩の藩祖結城秀康は、68万石の大大名に相応しく、多くの家臣を召し抱えましたが、その家臣たちが忠直の時代、大坂の陣で活躍することになります。

今回は、戦国大名武田家の旧臣であった山縣家（笹治）家、秀康の結城城主時代からの家臣で、「結城四老」と称された多賀谷家と山川家の3家を取り上げ、各家に伝来した知行や由緒、大坂の陣などに関連する資料を展示しました。

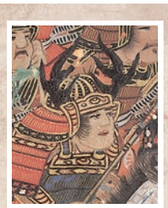
特に県内初公開となる多賀谷家の古文書として、豊臣秀吉や徳川家康の御内書、結城秀康や松平忠直の書状なども陳列しましたので、こちらにも注目ください。

大坂夏の陣図屏風に見る徳川方・豊臣方諸将の布陣と戦い（5月7日の最終決戦）

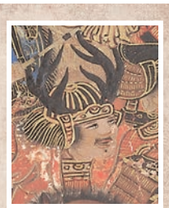


「大坂夏の陣図屏風」（右隻） 大阪城天守閣蔵

◎屏風に見える豊臣方の武将

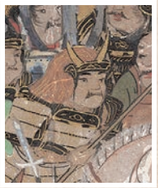


Ⓐ-1 真田大助 (1602?～1615)
幸村の嫡男
父幸村とともに奮戦、5月8日に秀頼に従って自害した。

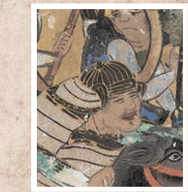


Ⓐ-2 真田幸村 (1567～1615)
豊臣秀頼に招かれた勇将
越前勢と戦って戦死、家康本陣へ突撃した話は有名。

Ⓑ 大野治長 (???～1615)
秀頼に仕えた武将
5月8日に秀頼に従い自害した。

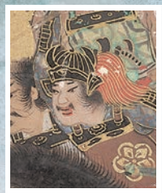


Ⓒ 大野治房 (???～1615)
秀頼に仕えた大野治長の弟
岡山口で徳川方諸隊と奮戦した。

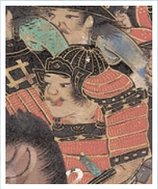


Ⓓ 毛利勝永 (???～1615)
秀頼に招かれた勇将
天王寺口で徳川諸隊を撃破するなどの勢いをみせた。

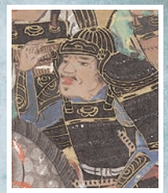
◎屏風に見える徳川方の武将



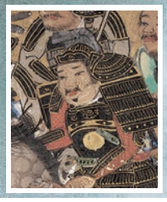
① 松平忠直 (1595～1650)
福井藩2代藩主（68万石）
家康の孫、真田隊と戦って破り、大阪城一番乗りを果たす。



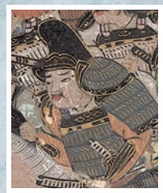
③ 井伊直孝 (1590～1659)
彦根藩2代藩主（15万石）
徳川四天王の一人、井伊直政の次男、赤備えで有名。



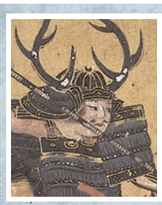
⑤ 伊達政宗 (1567～1636)
仙台藩主（61.5万石）
長女五郎八姫は松平忠輝の室。



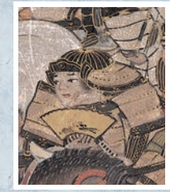
⑦ 黒田長政 (1568～1623)
福岡藩主（50.2万石）
冬の陣では江戸に留め置かれた。



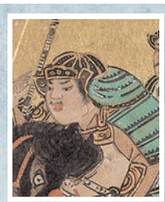
⑨ 藤堂高虎 (1556～1630)
津藩主（22万石）
前日5月6日の八尾・若江の戦いで勝利した。



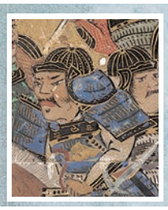
② 本多忠朝 (1582～1615)
上総国大多喜藩主（5万石）
徳川四天王の一人、本多忠勝の次男、毛利隊と戦い戦死。



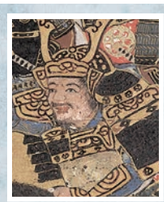
④ 前田利常 (1593～1658)
加賀藩3代藩主（119.2万石）
岡山口の先鋒を命じられた。



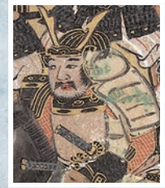
⑥ 松平忠輝 (1592～1683)
高田藩主（45万石）
家康の6男。



⑧ 加藤嘉明 (1563～1631)
松山藩主（20万石）
冬の陣では江戸に留め置かれた。



⑩ 徳川家康 (1542～1616)
江戸幕府初代将軍
大御所として天下の実権を握る。



⑪ 徳川秀忠 (1579～1632)
江戸幕府2代将軍
家康の3男。

解説

この屏風からは、慶長20年(1615)5月7日、大坂夏の陣の最終決戦における徳川方・豊臣方諸将の布陣と戦いの様子がわかる。屏風の上部には岡山口の攻防が見え、中央部には天王寺口の攻防が見える。その中心付近に描かれているのは、真田幸村(信繁)隊と松平忠直率いる福井藩の軍勢が激突する場面である。

※大名の領知高は『藩史大事典』『国史大辞典』を参考にした。